



タイ・ビルマ国境の難民と移民労働者

やぎ さわ かつまさ
八木沢 克昌

シャンティ国際ボランティア・常務理事・アジア地域ディレクター

タイ・ビルマ国境には、10ヶ所の難民キャンプがあり、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）に登録された難民だけでも13万5千人が暮らす。（2009年1月31日現在UNHCR）。さらに難民キャンプの外で暮らす難民が、20万人。そして、タイ・ビルマ国境のビルマ側の戦闘や強制労働から逃れた国内避難民が、50万人。さらに、タイ国内には、タイ・ビルマ国境の県を中心に200万人のビルマ人移民労働者がいる。この人数を合計すると約300万人近い人々がビルマの国内を離れて、難民や移民労働者としてタイ・ビルマ国境及びタイ国内に暮らしていることになる。

ビルマ国内では、少数民族や民主化グループに対する強制労働や人権弾圧、自治権を求めるカレン民族らと政府軍との闘争が続き、難民の本国帰還の目途は立っていない。こうした中で、国際社会が難民キャンプからの第三国定住の受け入れを開始したのが、2006年。2009年1月までに17,014人がアメリカを中心とした第三国へ定住した（国際移住機構IOMの統計）。最大は、アメリカで、14,986人。オーストラリア1,702人。ノルウェー130人。英国70人、ニュージーランド51人。カナダ50人、スウェーデン23人と続く。

日本政府は、アジアの国としては初めて「2010年からタイ・ビルマ国境の難民キャンプから30人を受け入れる」と、2008年12月に発表し、国際社会からの責任負担論に対応した。パイロット・プロジェクトとして3年計画で、90人を受け入れる

ことにした。日本政府は、タイ・ビルマ国境にある難民キャンプの中でも最大のターク県メーラ難民キャンプを対象とした。メーラ難民キャンプの人口は、5万人。30人といえば、5、6家族に過ぎない。「宝くじに当たるに等しい」と早くも諦めムードの人が多い。それでも同じアジアの国である日本行きを望む難民は多い。

ビルマからの難民や移民労働者が集まるのが、タイ・ビルマ国境のターク県メーソード。別名、リトル・ヤンゴンと呼ばれている。メーソードの街の周辺だけで、ビルマ人が15万人から20万人住んでいる。メーソードの街の人口の7割がビルマ人。さらにターク県の難民キャンプに滞在するカレン系ビルマ人は、6万人。

ターク県には、縫製工場・繊維関係等を中心とした労働集約型の工場が、530ヶ所ある。その7割がビルマ人移民労働者。その8割が違法就労。日給は、50パーツから70パーツ（1パーツ2.5円）。タイ人のターク県の最低賃金の半額から3分の1。タイのビルマ人移民労働者は、前述の通り約200万人といわれているが、タイ・ビルマ国境の県を中心に、22県に拡大している。

特に、ビルマ人移民労働者の多いのが、南部の国境のラノーン県。そして、西の国境のターク県。さらにバンコク近郊の漁業と海鮮の街、サムットプラカーン県。特に、ターク県の国境の街、メーソードからビルマのアンダマン海まで僅か80キロ、そして、ヤンゴンまで直線距離で約200キロ。タ

タイ・ビルマ国境のメーソードにあるゴミ山の
スラムで働くのは、ビルマ人、ゴミ山のスラム
は、マニラ、ブノンペン等にもあるが、普通は
自国の人が働く。外国人が、ゴミ山のスラムで
働くのは、ここだけ。



イの首都バンコクへは、300キロ。リトル・ヤンゴンと呼ばれるメーソードは、タイの街というよりは、完全にビルマ。街の市場や街中がビルマの伝統衣装を着たビルマ人で溢れる。衣料、日用雑貨から食料品、ビルマ語の図書、CDの音楽、映画、仏具屋等何でも手に入る。街にはビルマ語の看板が溢れる。街の中には、ビルマ系イスラム寺院やイスラム教徒の居住地区まである。

メーソードの周辺は、縫製工場を中心とした労働集約型の工場だけでなく、田植え、稲刈り、サトウキビ、トウモロコシ、バラ等の園芸、農業、道路建設、建設現場、商業、食堂、夜警、メイドなどビルマ人移民労働者抜きには、経済が成り立たない現実がある。タイ・ビルマ国境は、完全に経済特区ともいえる。

ビルマ人移民労働者は、ビルマ国内の政治的な人権弾圧と経済の低迷で、いわゆる、従来の政治的「難民」と「経済難民」ともいえる移民労働者の境界と定義がつきにくくなっている。難民キャンプには、明らかに第三国定住を目当てに難民を装ったビルマ人がビルマ各地から流入して新たな問題となっている。

さらに昨年5月にビルマ南部のデルタ地帯を襲い、死者・行方不明者14万人、家を失った人80万人となったサイクロンの被災者も国境を越えて、このメーソードの街や国境の難民キャンプに流入している。災害難民とも呼べる人たちだ。

移民労働者のビルマ人たちの8割が違法就労で

あることから賃金の未払い、ブローカーの暗躍、劣悪な環境での労働、劣悪な居住環境、スラム化、保健衛生、性的搾取、児童労働、子どもたちの教育等様々な問題を抱えている。違法就労の子どもたちはタイの学校に通えないためにメーソードには、ビルマ移民労働者教育委員会の傘下に、54の小学校在非公式に組織運営されている。小学校では、ビルマ語で教育が行われて、タイ語も教えている。教室の不足と設備の劣悪さは深刻だ。

タイの人口は、6,200万人。労働人口は、3,300万人といわれている。この中で、ビルマ人移民労働者の人口が200万人。タイの中でいかにビルマ人の労働者が多いか、また、タイの経済にいかに安価に労働力を提供して貢献しているかが数字に表れている。

タイ・ビルマ国境は、陸続きで元々国境の概念が薄い。今でもメーソードの国境は、入管がありながら地元の人は国境の川を殆ど自由に往来している。タイの警察は、違法就労者を検挙し、国境に送り返すが、また直ぐにタイ国内へ戻ってきてしまう。

このタイ・ビルマ国境、深刻な問題も多いが、同時にアジアの21世紀の国境を越えた民族の移動、移民労働者問題、難民問題、異宗教・異文化との共生の問題を先取りしているともいえる。国境、その国と隣国の問題、矛盾、そして、希望と絶望で混沌としているようにもみえる。